

(要約版)

近世・近代における佐賀のたばこ産業発展についての考察

助成研究者 近藤貴子(武雄市図書館・歴史資料館 長崎方控研究会研究員)

共同研究者 川副義敦(武雄市図書館・歴史資料館 参事(学芸員))

1. 研究目的と方法

江戸時代後期から近代（煙草専売法実施以前まで）における、佐賀藩および佐賀県内のたばこ事情全般に着目し、同地域における煙草産業の様相について研究する。

従来、明治 37 年に実施された煙草専売法以前の佐賀および佐賀県の煙草産業の実態を明らかにする先行研究が無く、資料の存在も不明な点が多かった。そこで本研究では、時代を前述の通りに定め、各地に所蔵される資料から佐賀の煙草業者等を中心に研究を進めることとした。

研究の方法として、主に佐賀県内の博物館や歴史資料館、図書館などに残される煙草関係資料を調査した。特に、江戸時代後期については、これまで煙草の分野では未調査であった「長崎方控」（武雄鍋島家資料/武雄市蔵）、佐賀城下町における煙草関係者が多数記録された「^{かまどちよう}竈帳」（公益財団法人鍋島報効会蔵）を中心に、当時の煙草事情を追った。また、煙草専売法実施以前までの明治時代については、明治 24 年（1891）6 月から発行された中央煙草業協会の機関誌『^{えんそう}煙草雑誌』を中心とし、佐賀県の統計資料、当時佐賀の代表的煙草商だった森永作平関係資料等を比較しながら、民営期の煙草関係者および取扱い煙草を抽出した。

2. 研究成果

佐賀藩の支配体系の中で親類同格に列せられた武雄鍋島家の資料の「長崎方控」（武雄市蔵）に、長崎からもたらされた煙草の記事がある。天保 9 年（1838 年）から文久 2 年（1862）9 月までの記録は、第 28 代武雄領主鍋島^{しげよし}茂義（寛政 12 年/1800～文久 2 年/1862）が家督を相続した天保 3 年（1832）から逝去するまでと、その時期を同じくし、細かな注文の仕方や味の好みなど、領主の嗜好とも考える記録が見られた。また、江戸時代末期の嘉永 7 年（1854）に作成された「竈帳」（公益財団法人鍋島報効会蔵）からは、佐賀城下全 45 町中 33 町で煙草製造および販売に関する人物を確認した。

明治時代に入り、明治 37 年（1904）の煙草専売法が実施されるまで、佐賀市および佐賀県内に煙草の製造高、製造販売の戸数と関係者を、『佐賀県統計書』、中央煙草業協会発行『煙草雑誌』、「煙草営業者組合規約」（佐賀県立博物館寄託、森永雄平氏蔵）より確認した。特に煙草営業者組合の組長も務め佐賀の煙草業界では代表的人物であ

った森永作平、また銀座で活躍していた佐賀出身の西村辨吉、江副廉蔵、枝吉熊彦の3名の煙草商も確認することができ、銀座で販売されていた煙草のうち、佐賀製造のものが取り扱われたことも判明した。

3. 今後の課題

従来、佐賀における煙草関係者およびその取り扱い煙草については、明治期の状況も含め詳細は不明であった。

しかし、今回の研究で、江戸時代後期の煙草に関する資料と佐賀城下での関係者の存在を確認し、さらに、明治時代、銀座における佐賀出身者たちの活躍の実態を確認できたことは大きな収穫であったと言える。

その一方で、江戸時代後期の「竈帳」から抽出した佐賀城下の人物と明治期の佐賀市の煙草関係者たちが、どのような関連を有したかについては、森永作平以外には、その成果は乏しいと言わざるを得ない。

今回確認できた人物相互の関係、流通の状況などを考察し、また煙草専売法が実施された明治37年前後の状況を調査することを今後の課題として提起する。